

令和6年度 文学部 日本・中国文学学科
学校推薦型選抜 小論文②

○解答例

一

男女を問わず、人に対して情愛があることは最も素晴らしいことである。なかでも、直接にはではなく、自分の知らないところで、ちょっとしたことでも、自分に共感したり同情してくれたりする人がいたことを聞くと、感謝の念をなんとか相手に伝えたいと思うくらい嬉しいことである。自分によくしてくれることを期待できるような、恋人や家族、親しい友人だったら、それも不思議ではないけれど、あまり関わりのない人が、思いがけなく好意的に受け答えしてくれるのは、なかなかないことだけに非常に有り難いものだ。以上がこの文章の大意である。

思いやりや情愛は何より大切であるけれども、筆者は特に思いもよらない他人からの好意に感謝の念を感じると述べている。関係の薄い人からの好意は、肉親や普段から親しい相手と違って、無償のものとしてより純粹さを感じるからである。直接にはではなく間接的に相手の好意を知る方が、迎合のない相手の本心としてさらに嬉しく思うのも同様である。見返りを求めない他人の親切こそ、親密な仲の愛情とは違った稀少な価値を持つというのが、筆者の主張である。

親しい仲での好意を、当たり前と受け止めるのはありがちなこととして理解できる。しかし、それは、相手の好意や愛情を軽視して蔑ろにすることにつながる懸念がある。もちろん、利害関係が無い赤の他人の親切は、予想外のことだけに嬉しさも倍増するが、一方でそれは、関わりの薄い一時的なものであるからこそ気軽に与えられるとも考えられる。その違いをよく弁えて、身近な人々の継続的な配慮や愛情に感謝することを忘れるべきではない。(665字)

二

世の学者たちは君主に対し、不正な臣下に対処するためには君主の威厳によって抑えよとは言わずに、仁義や恵愛のみを説くので、君主は仁義の美名に引かれて、それに実効性のないことに気付かず、結果として君主は国を滅ぼし命を失い、また領土を削られたり、身分を失ったりしてしまう。世間では、貧困の人々に恵み施すことが仁義であり、人民を憐れみ、処罰を加えることをためらうことを恵愛だとするが、それならば、仁義は功績のない者に賞を与えるのと同じであり、恵愛は乱暴者を止めることはできない。国に功績もなくして賞を得るようなものがあると、その影響で人民は外敵と懸命に戦うことはせず、農作業も怠り、賄賂や私心による善行によって高官高給にありつこうとするようになる。こうなれば、不正な臣下や暴徒が増すばかりで、国家が滅びるのは明らかである。筆者はこのように述べ、仁義や恵愛で国家を治めることはできないと主張する。(392字)